

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400145		
法人名	(有) プレム・ダン		
事業所名	グループホーム おかげさん		
所在地	玉野市玉1丁目8番8		
自己評価作成日	平成29年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400145-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400145-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2-13-1		
訪問調査日	平成29年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームおかげさんは9床1ユニットの小さなグループホームなので一人一人の利用者様の方が不自由なく「普通」に暮らせること願って支援しております。少しの不自由があっても不安や混乱が少なくなるよう利用者様に合わせたお手伝いや畑仕事等を日課にさせていただき張りのある生活をしていただいております。また月ごとに個人支援として外食や個人のお好きなおやつを食べに出掛けております。ご家族様には、ご家族様にしか、できない支援をお願いし、本人にとってかけがえのないご家族の存在を大切にしたいと考えお願しております。防災面では年「6」回の避難訓練を実施し地区の消防士の方にもご協力いただいております。グループホームおかげさんでは、創立より「パーソン・セントアド・ケア」をベースに一人一人が大切にされるケアを職員一同実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玉野と言えば、三井造船、岡山で造船事業と言えば玉野。その地にグループホーム「おかげさん」が開設されて秋には7年目を迎えようとしている。ホームの窓からは造船所特有の風景が目当たりに見えるし、男性利用者とはそこで働いていた頃の話で盛り上がる。下請けの仕組みから社員絡みの興味深い話・お互いにつながり合っている人間関係の話等、この土地独特の雰囲気が感じられる。そのせいばかりではないと思うが、利用者同士の思いやりや助け合い・職員間の仲の良さは何にも変え難い特長と言えるだろう。又、利用者一人ひとりの、あるがままの姿と思いを大切にしようというホームの理念が浸透しているからかもしれない。食事作りにも特に力を入れ、月1回の個別支援としてのドライブと外食の楽しみも嬉しい。新しく造った船の進水式が、すぐそこで行われる様子を語ってくれた男性利用者の誇らしげな顔が満足そうに感じられた。この地域の中に溶け込んで、一役担うホームを目指して頑張っている「GH・おかげさん」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り共有を話し合いの中で再確認して実践につなげている。	「人が人をケアする」との考えに立ち、その人を中心としたケアを心がけ、本人の持てる能力を引き出すように日々支援している。職員は各自、理念を念頭に置きながら利用者への接し方や対応について職員間で話し合い、同一のケアが出来る様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶をしたり地域の行事等のご案内をいただいたり様々な機会を通じて交流を図っている。	洗濯物を干している時に急な雨降りになると、近隣の住民が声かけしてくれる等協力的で良い関係が継続している。道路向かいにあるこども園の運動会をホーム庭先から見学するのは毎年恒例になっており、園庭で遊ぶ子供たちの賑やかな歓声日々聞かえてくる。	ホーム近くの住民の方々とのつきあいはよく出来ているので、今後は町内会の役員・世話人、特に民生委員・愛育委員等の方々や交流し、情報交換や情報共有していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加していただきホームでの行事や生活ぶりを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された要望や意見については職員と共有しサービス向上につなげるよう努力している。	運営推進会議に併せて避難訓練を実施することもある。家族へ開催案内を出し、毎回数名の家族や利用者、近所の住民、消防署員等の参加がある。地域包括には参加依頼をしているが、ここ数年は参加してもらえていないので、情報交換の機会を増やしていこうと考えているところである。	地域密着型サービスが重要なグループホームとしては、今後運営推進会議の重要性が益々要求されていくと思う。この会議の有り方や運営方法・意見交換の内容等について更に検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員が年3回程訪問され入居者のホームでの生活状況を伝えたり相談させて頂いている。	地域包括主催の研修に参加し、ホームの情報発信をしたり、年数回、市から介護相談員の訪問がありホームの実情を把握してもらっている。生保の人も数人いるので市の担当者とは日頃から何かと相談したり連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の方の自由な生活を保つため日中玄関等の施錠はしていない身体拘束をしないケアを実践している。	入所後半年間は外に出ていく事が多かった人が、今ではすっかりホームに馴染んで落ち着いており、現在一人で外に出ていく人はいない。外に出たい人には職員と一緒に買い物や散歩に行き気分転換をしてもらっている。身体拘束廃止の外部研修に参加し職員間で意識の統一や勉強をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修やミーティングを定期的に行い声掛けなどで不適切な発言があった場合には職員間で注意しあいながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会の機会を設けているが、制度的なことはできていない。研修の際に学んでいるがすべての職員にそれらを伝えきれておれず活用できる環境ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には不安や疑問点をたずね、それについて理解納得をしていただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際や、面会時などで入居者の方の生活の様子を伝え、ご家族からのご意見や要望をお聞きし、実践に生かすようにしている。	運営推進会議に家族の参加があるが、意見が出る事は少ない。「おかげさん通信」を毎月発行して行事や生活の様子を家族にお知らせしているが、個別の状況報告は面会時や電話でお伝えしている。家族からの意見や要望はプランや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回ミーティングを行っており、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今年度は職員の大幅な入れ替わりがあり、体制も一新し、新規職員の育成にも力を入れると共に職員の意見でそれぞれに役割を決めて企画を立てることで、和気あいあいとした良い関係が出来ている。このホームには職員同士で何でも気さくに話し合える雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップによる手当てなど独自のシステムがあり、向上心がもてる様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に対して研修の機会を与えたり、事業所内での勉強会や、他の事業所の研修生を受け入れ、職員に対して刺激を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべての職員には出来ていないが、同業者同士の食事会などで意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前や契約時で事前に状況の把握を行い、職員間で共有を行う。サービス導入開始時は、密にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時、その後の面会時などでコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族にサービス内容の説明を行いながら、支援内容の確認をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく業務に集中しないように心がけ、一緒に活動をしたり、一緒にいる時間を増やせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒に過ごせる環境を作りを行い、またご家族様に行事等の参加を促しながら、一緒に食事をしたり、談笑したりして過ごせる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の確認うえ、知人が来られた際には一緒に過ごせる環境を作ったり、ご家族の協力の上会いに行かれたりしている。	以前から利用しているデイケアに馴染みの人がいるので、継続して利用し交流をしている人にとってはそこが馴染みの場所になっている。利用者と職員が旧知の仲の人や元職場の仕事関係で話が合う人も多く、この土地独特の人間関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の活動を一緒に出来る環境を提供して、利用者間の相性を把握し、状況に応じて職員が介入しお互いに少しでもコミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設に事案が無く実践出来ていないが、今後あれば相談や支援に努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で希望や意向が聞けるような声掛けを行っている。言葉で難しい方には仕草や様子を観察し意向を把握するようにしている。	日々の生活の中で、やりがいや役割を持ってもらい生き生きと過ごしてもらおうと、職員は本人の思いや希望を聞き出し、ケアプランの中に盛り込んで支援している。「自分の洗濯物は自室に干す」という人の意向を尊重したり、男性利用者の中には野菜作り担当の人もある。	一日の訪問中、職員が利用者一人ひとりの思いをいかに大切に、尊重しようとしているかはよく伝わってきた。現場での気付き・利用者の言葉や気になった行動等メモし、情報を共有する工夫と実践がステップアップにつながるだろう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に今までの生活歴を聞いたり、以前入居されていた施設の職員に情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に歩いたり、活動を行うことによって現状を把握し、また定期的にバイタルチェックを行っている。それらを記録し職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に対して担当を作り、担当者を中心として定期的にモニタリングを行っている。	ホーム独自のケアプラン様式「わたしの時間の過ごし方(生活支援プラン)第1表～3表」には利用者・家族の意向を基に、生きがい・役割につながるような生活を支援するケアプランになっており、定期的にモニタリングをして職員間で話し合いながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録やスタッフ間が共有できる申し送り簿を作成し、出勤時には目を通すようにしている。また、変更があった際には、朝夕の申し送り時に連絡報告し全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個々の利用者の方のニーズに合わせた支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩や近隣への外出等を行っている。毎月外食支援として何人かずつ職員とマンツーマンで外食を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い、定期的に往診を受けたり、状況の応じて受診をしている。	殆どの人の主治医であるホームの協力医の定期的な往診もあり、職員に看護師も配置しているので日頃の健康管理はよく出来ている。訪問歯科による口腔ケアの実施、他科への受診や精神科のデイケアへの支援もしており、家族の協力もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が勤務しており、バイタルチェックや医療的な助言、急変時の対応してもらっている。また24時間のオンコール体制なので随時の連絡や出勤で対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護師や医療ソーシャルワーカーと連携を図り、治療状況の把握や早朝に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においてホームで出来ることをご家族に説明を行っており、またケアの方針も伝えている。かかりつけ医、家族と相談しながら方針を検討している。	過去には看取りを経験した事もあるが、近年は医療が必要となり入院するケースが多い。最近も100才の誕生日を目前にしながら退所となった人がいた。本人・家族の希望があり特別な医療的処置が必要なければ、医療機関・家族等と連携しながら最期まで支援していこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々で勉強したり、急変時マニュアルの則して行動するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は年6回避難訓練を実施している。3回は地震・津波による避難、3回は火災に対する避難としている。	避難訓練を運営推進会議に併せてする事もあり、消防署の立会いの下、消火器を使用した訓練を実施した。夜間想定の高潮・台風の訓練ではホーム2階に階段を使って避難し、いつも日中に定期的に行っている避難訓練では利用者と一緒に車で深山公園に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人個別の尊重した関わりを行うよう実践している。女性の利用者の方には名前を声かけたり、男性の利用者には名字で声掛けを行うなどの配慮もしている。	利用者一人ひとりとじっくり向き合い、その人らしさを発揮出来る場作りを職員は支援しようとしている。入浴や着替え等、「自分の事は自分でしたい」と言う人には羞恥心やプライバシーにも配慮しながらそっと見守り、意思を尊重しながら自立支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、なるべく思いを聞いてから支援するように努めている。一方でご本人の意志がはっきり分からない場合もあり、様々な方法で関わるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースにできるだけ合わせるよう配慮している。職員のお手伝いや家庭菜園のお世話を毎日楽しんで下さっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室や散髪に行かれたり、訪問散髪を利用される方もおられる。身だしなみについては常に気にかけて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、目で見て分かる工夫も行っている。利用者の方の中には一緒に調理したり、片付けをしてくださる方もいる。	開設当初より食事面を重要視しており、品数も多く必ずデザートも付けて食べる楽しみを味わってもらっている。「皆さん完食するので作りがいがあ」と職員から聞いた。家庭菜園で作った野菜を使ったり、テラスでバーベキューをする事もあり、皆で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェック表に記入し、把握できるようにしている。状況に応じて水分補給や代替品が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、うがいやブラッシングをして頂いている。就寝前には入れ歯の管理をさせていただいてる口腔ケア困難な方には定期的に歯科往診をして頂き口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入しその人の排泄パターンを把握するように努めている。失禁がみられることもあるが、適切なオムツの使用を心掛けている。尿意の訴えがない方には定期的に声掛けにてトイレ誘導を行っている。	歩行が不安定で夜間用にポータブルトイレを置いている人は1名。排泄が自立やそれに近い人も多く、自分でリビングにあるトイレに行く人の姿が目立った。職員は一人ひとりの状態を把握し、オムツ講習会をして自立支援に向けたケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に散歩や体操等行っている。センナ茶や腹圧、処方されている便秘薬の内服なども行っている。定期的な排便が出来る様今後も工夫が必要と思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調や希望に沿うようにしている。時間帯については、午後から夕方に行っている。	3日に1回の入浴を基本とし、二人介助をしている1名を含め全員浴槽を跨いで入浴出来、自分一人で或いは職員とマンツーマンでの入浴を楽しんでおり、良いコミュニケーションの場となっている。恥ずかしがり屋の人はいるが今のところ同性介助までは必要ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にご本人様の希望を聞き、1～2時間程度の静養をされる方もいる。就寝時には、個々の入居者の方に合わせ休んでいただいている。寝る前に居室でテレビを見て過ごす方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイリングし、常時確認ができる様にしている。副作用等については看護師に確認することもある。かかりつけ医、看護師との協働を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事やカラオケ、外出などの趣味やレクリエーションを行っている。またご本人の出来る役割をしていただいている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に応じて、希望に沿いながら、外出を行っている。行先は近所の場合もあれば、車で少し遠出をすることもある。	外出支援には力を入れており、ドライブを兼ねて花見や紅葉、藤の花の見学等に出かけている。毎月、個人の希望にそって出かけている外食支援はとても好評であり、職員と一緒に行く日々の散歩や買い物も利用者にとって良い気分転換になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には本人もちの財布を持って出掛けその人の能力に応じ買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には電話をして安心できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要なものは置かないように努め、廊下の距離感や天井の高さを配慮し圧迫感が無いようにしている。季節に応じた飾りつけもしている。	今日はちょうど七夕の日。リビングに職員が持参した大きな笹の枝が置いてあり、利用者がそれぞれ願いを書いた短冊を括り付けていた。輪になり職員と風船バレーに興じている人達、歌集を片手に口ずさんでいる人等、明るい日差しが降り注ぐリビングの中は居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを配置している。また利用者の方の状態の変化に応じて配置を変更したりもしている。また相性の合う入居者同士が座れるよう誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物を持ってきていただいたりしている。また家具の配置換えなどの工夫も行っている。状況に応じて必要な物があれば家族に依頼している。	仏壇や使い慣れた家具を持ち込んだり、お気に入りのポスターや家族の写真を飾っている人もいる。入所して日の浅い人や自分のペースで過ごしたい人にとっても、落ち着いた寛げる居室になっており、コアクリーンを使用した清潔な環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいカレンダーやアナログ時計を設置し出来る限りご本人が自分で分かる様な工夫をしている。		